

第2章 本市の食育に関する現状及び課題

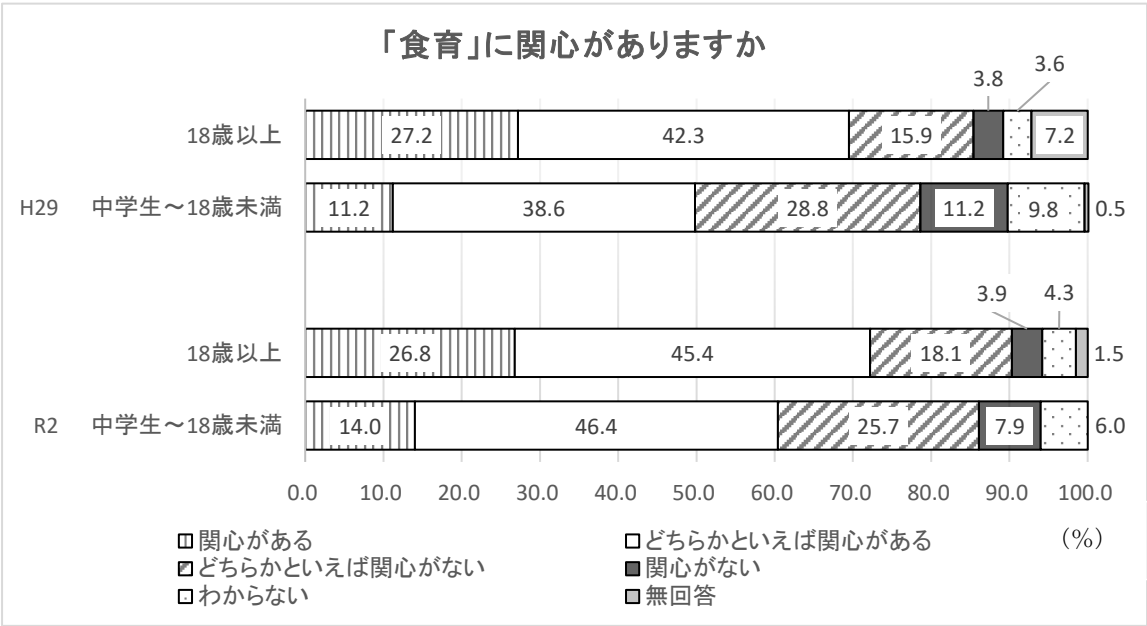
本市の食育に関する現状及び課題を、市民意識調査（「3・食育に関する市民意識調査実施概要」）等で得られた結果をもとにまとめています。

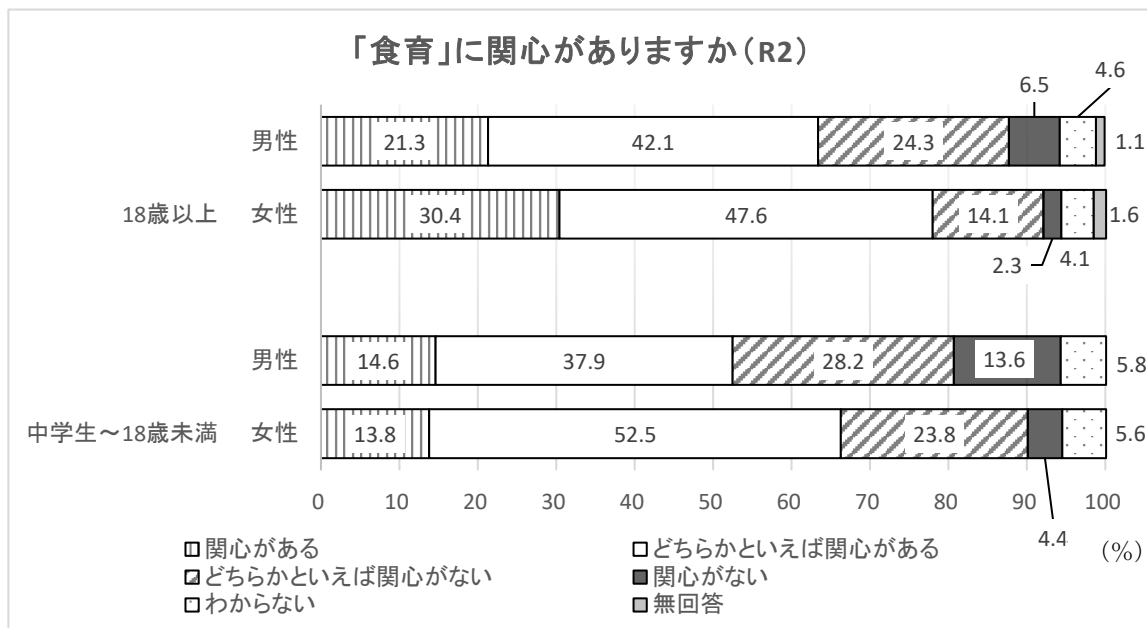
1. 現状及び課題

(1) 食育への関心について

平成29年度調査（以下、「前回調査」という。）と比較すると、関心がある割合（「関心がある」「どちらかといえば関心がある」）は両世代で増加しており、中学生～18歳未満では前回調査より10.6ポイント増加しています。また、性別で見ると、男性より女性の方が関心がある割合は高くなっています。

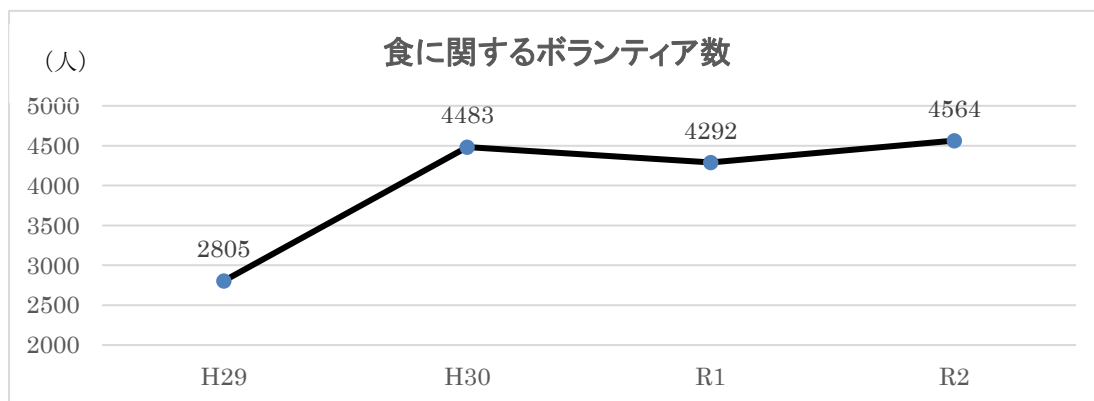
引き続き様々な講演会や講座等を実施して食育の周知・広報に努めるとともに、男性の食育に関する関心度を上げる工夫も行いながら全体の関心度を高めてまいります。





(2) 食に関するボランティア^{※①}について

平成29年度から平成30年度で大幅に増加し、その後は微増傾向にあります。近年の子ども食堂^{※②}の増加や、ボランティア団体の組織化が一因と考えられます。全体数は増加していますが、団体ごとで見ると会員が減少しているところもあるので、継続して活動できるよう支援していく必要があります。

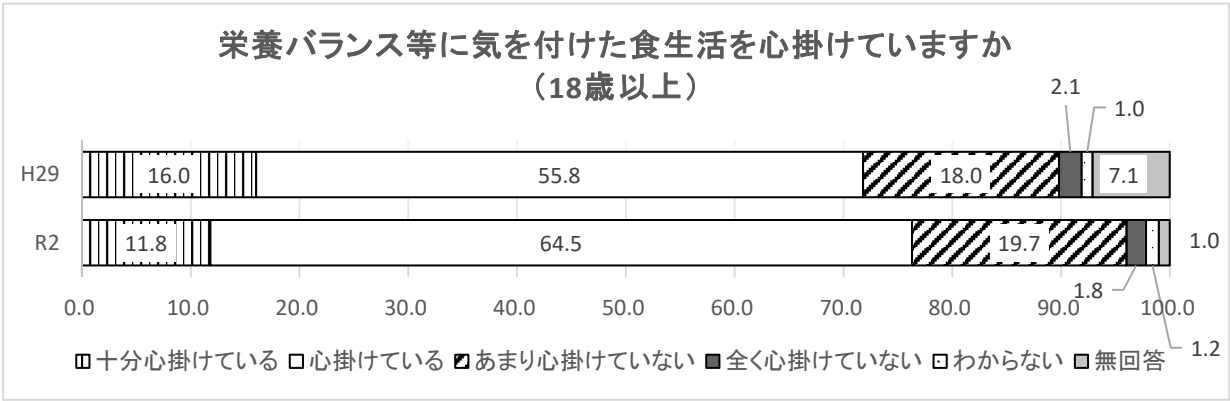


(3) 栄養バランス等について

前回調査と比較すると、心掛けている割合(「十分心掛けている」「心掛けている」)は、増加しています。健康意識の高まりやコロナ禍により自宅で食事をする人が増えたことが一因と考えられます。「栄養バランス」という考え方には個人差、年代差があるため、今後はそれぞれの年代に合わせた指導をしていく必要があります。

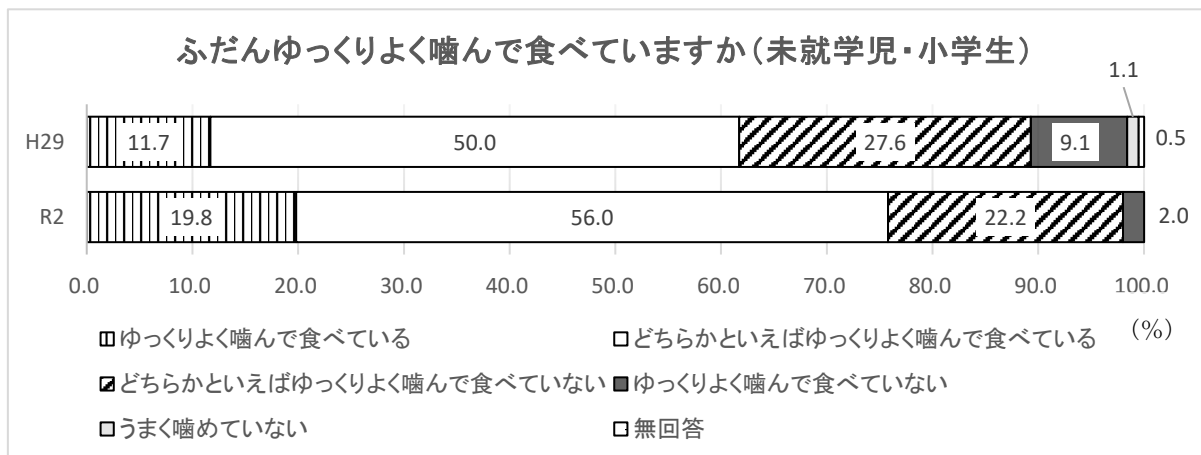
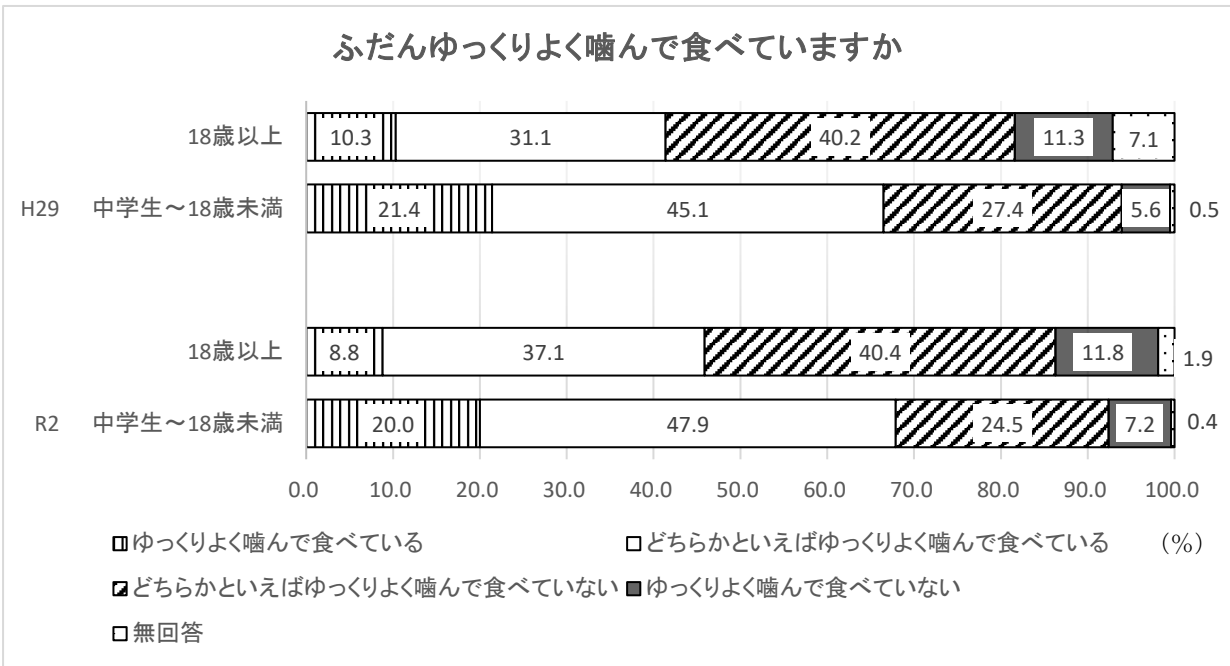
※①食に関するボランティア：本市において定期的に登録又は届出をしていること等により、本市が把握しているボランティア(個人・団体)のこと。

※②子ども食堂：子どもたちに対して、無料または低額で食事や居場所を提供する活動のこと。



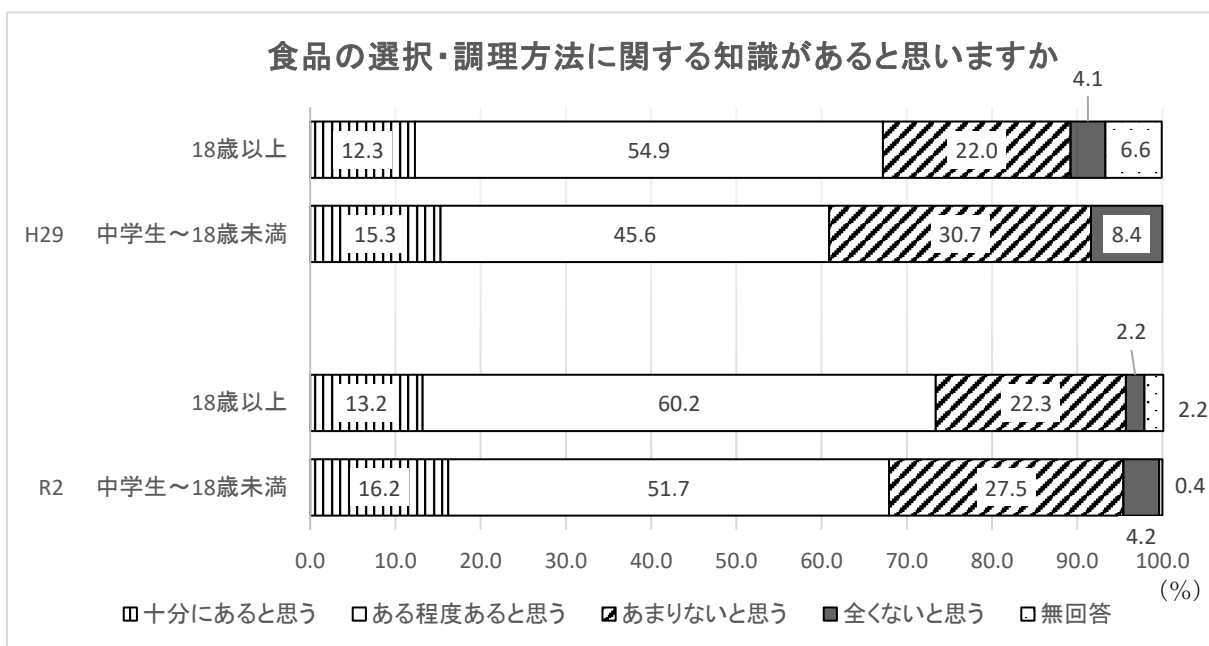
(4) 噛むことについて

前回調査と比較すると、よく噛んで食べている割合（「ゆっくりよく噛んで食べている」「どちらかといえばゆっくりよく噛んで食べている」）は全世代で増加しています。ある程度の噛み応えがないと「よく噛む」ことはできないので、今後は噛み応えのある食事をとることがよく噛むことにつながる、ということ伝えていく必要があります。



(5) 食品の選択・調理方法に関する知識について

前回調査と比較すると、知識がある割合（「十分にあると思う」「ある程度あると思う」）は、両世代で増加しています。情報が手軽に手に入るようになったことが一因と考えられます。なお、コロナ禍において家庭で食事をする機会が増加しているため、今後は家庭における食品の保管や衛生管理についても周知・広報していく必要があります。

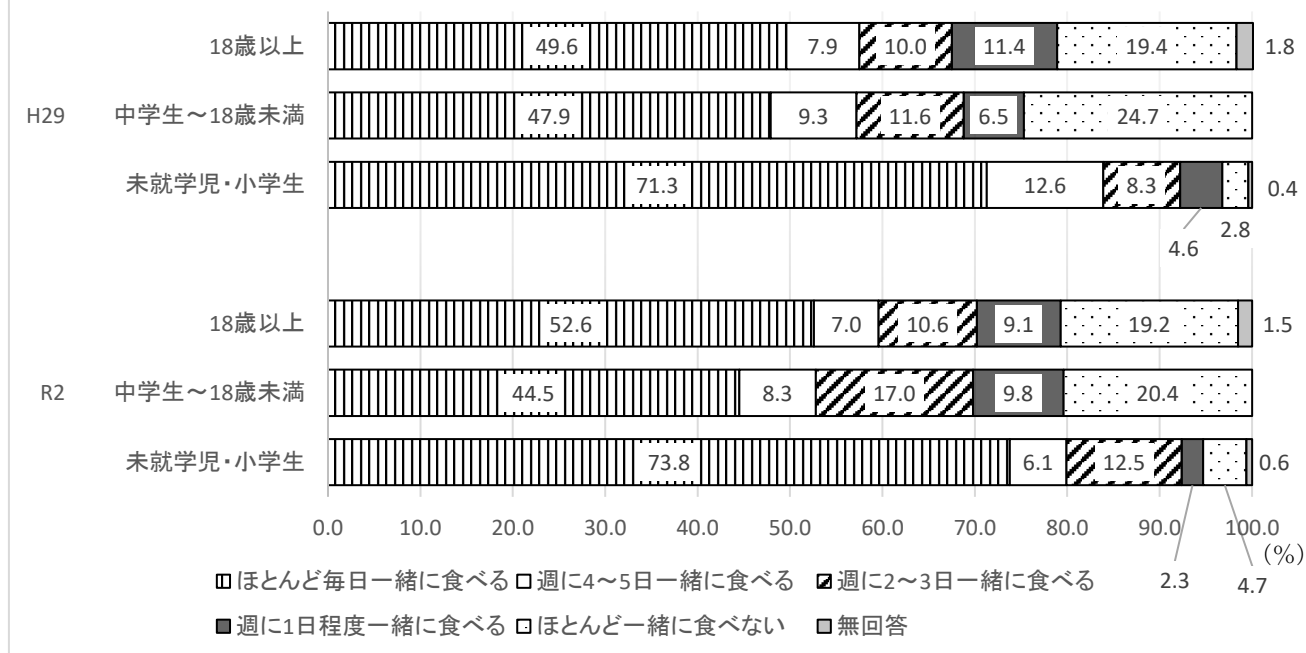


(6) 共食について

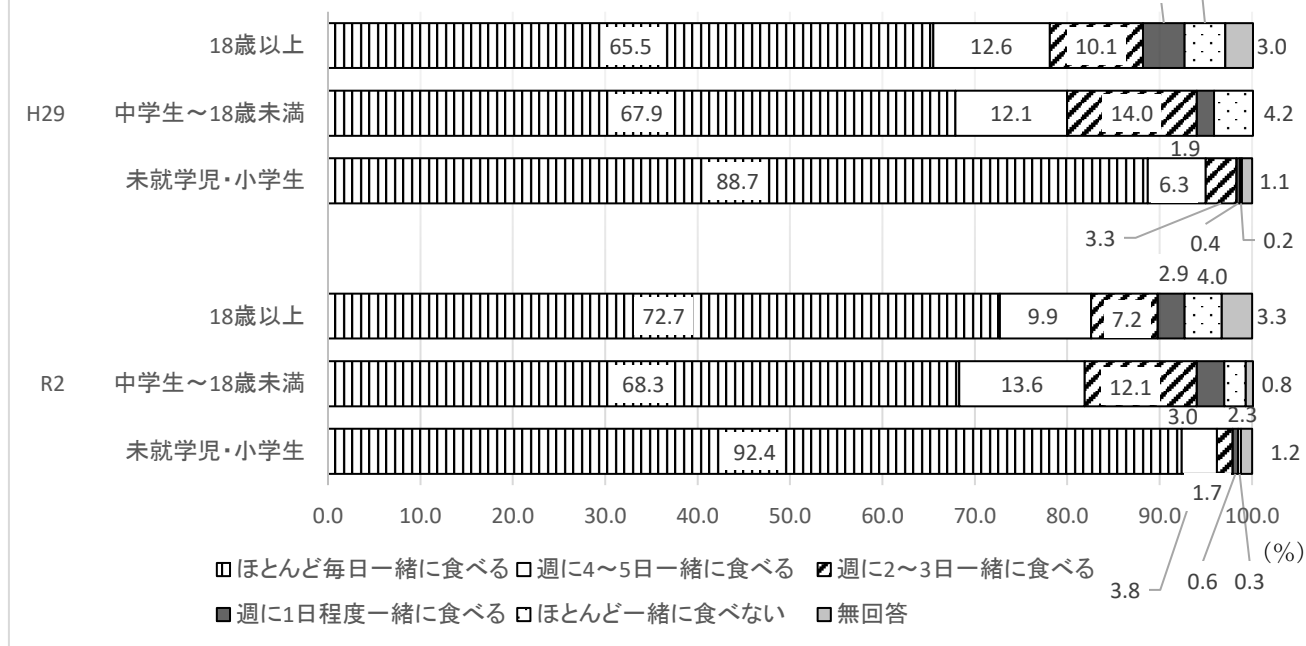
① 家族との共食頻度

「ほとんど毎日」と回答した割合は、全世代で朝食より夕食の方が多くなっています。また、前回調査と比較すると、「ほとんど毎日」と回答した割合は、中学生～18歳未満の朝食が減少しています。家族が食卓を囲んで共に食事をとりながらコミュニケーションを図ることは食育の原点であるため、今後も引き続き共食の大切さを伝えていく必要があります。

朝食を2人以上で食べることがどのくらいありますか



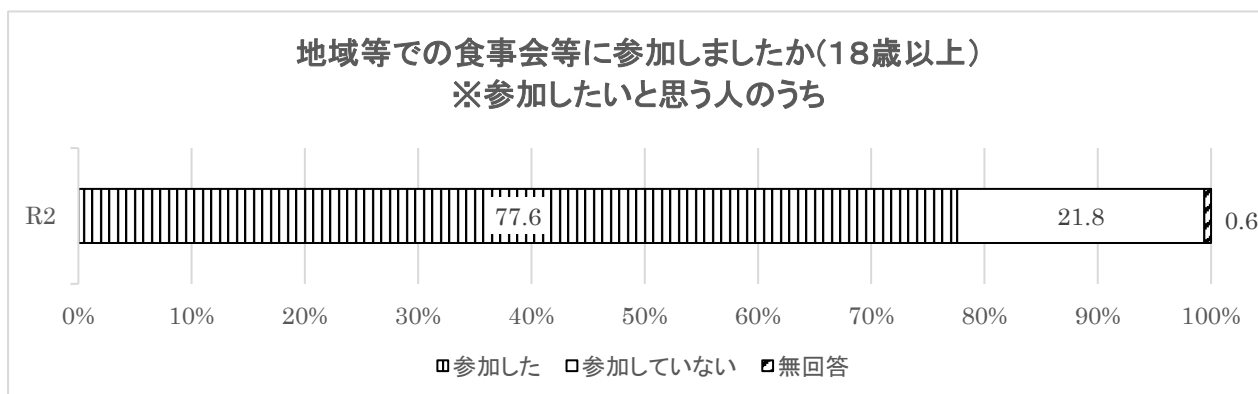
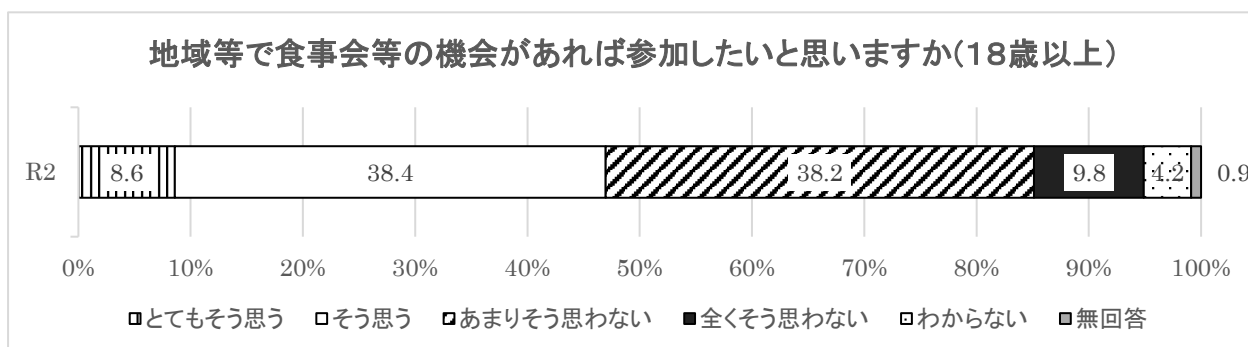
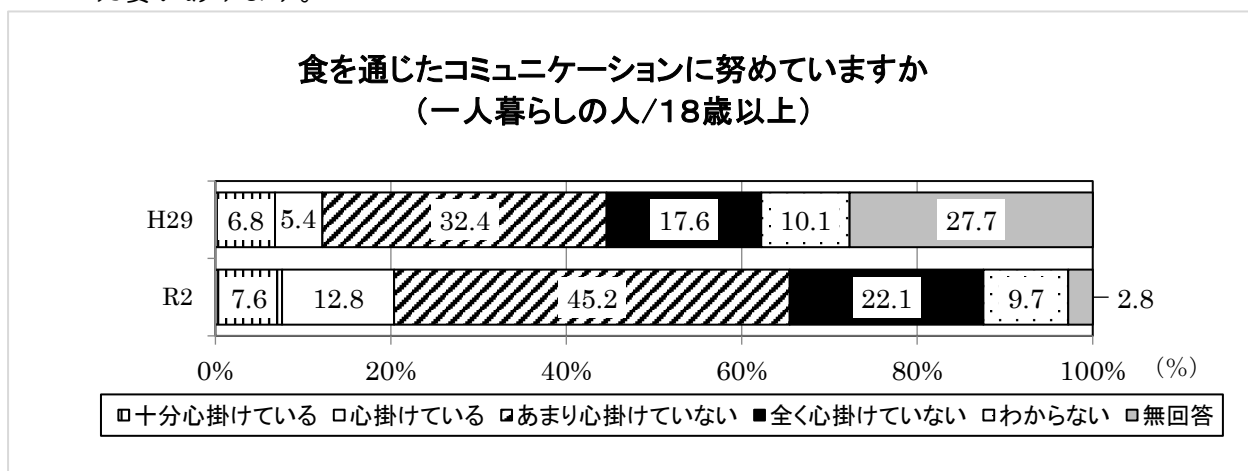
夕食を2人以上で食べることがどのくらいありますか



②地域での共食

前回調査と比較すると、1人暮らしの人のうち食を通じたコミュニケーションに努めている割合（「十分心掛けている」「心掛けている」）は増加しています。また、地域等で食事会等の機会があれば参加したいと思う割合（「とても思う」「思う」）は、全体の47.0%で、そのうち実際に参加した人の割合は77.6%

となっています。孤食※③より共食をするメリットが多いことは国の調査からも明らかになっているため、今後は、新しい生活様式の中で出来る共食を検討していく必要があります。



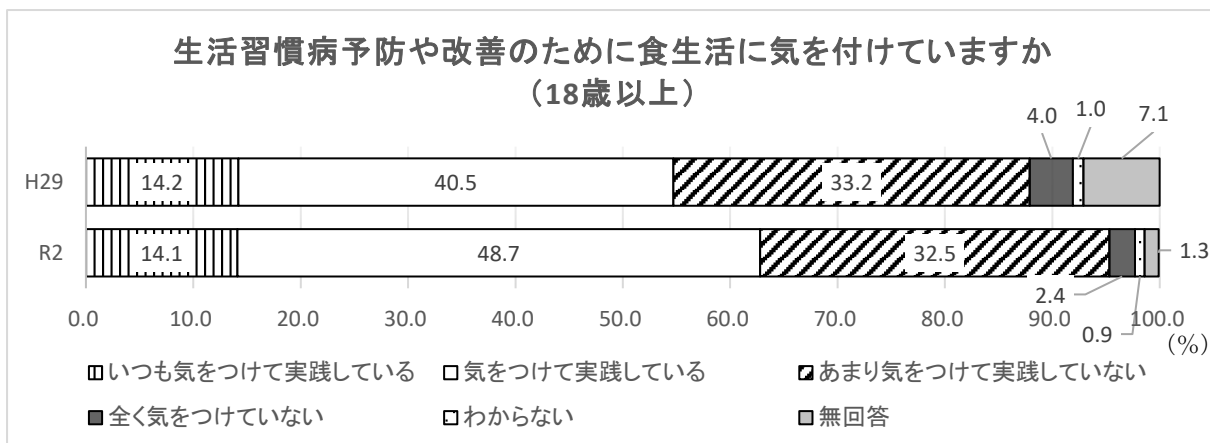
(7) 生活習慣病※④予防・改善のための実践について

前回調査と比較すると、気をつけている割合（「いつも気をつけて実践している」「気をつけて実践している」）は増加しています。また、若い世代は他の世代と比較して気をつけている人の割合が低い傾向にあります。生活習慣病の予防には日頃の食

※③孤食：食事を一人でとること。

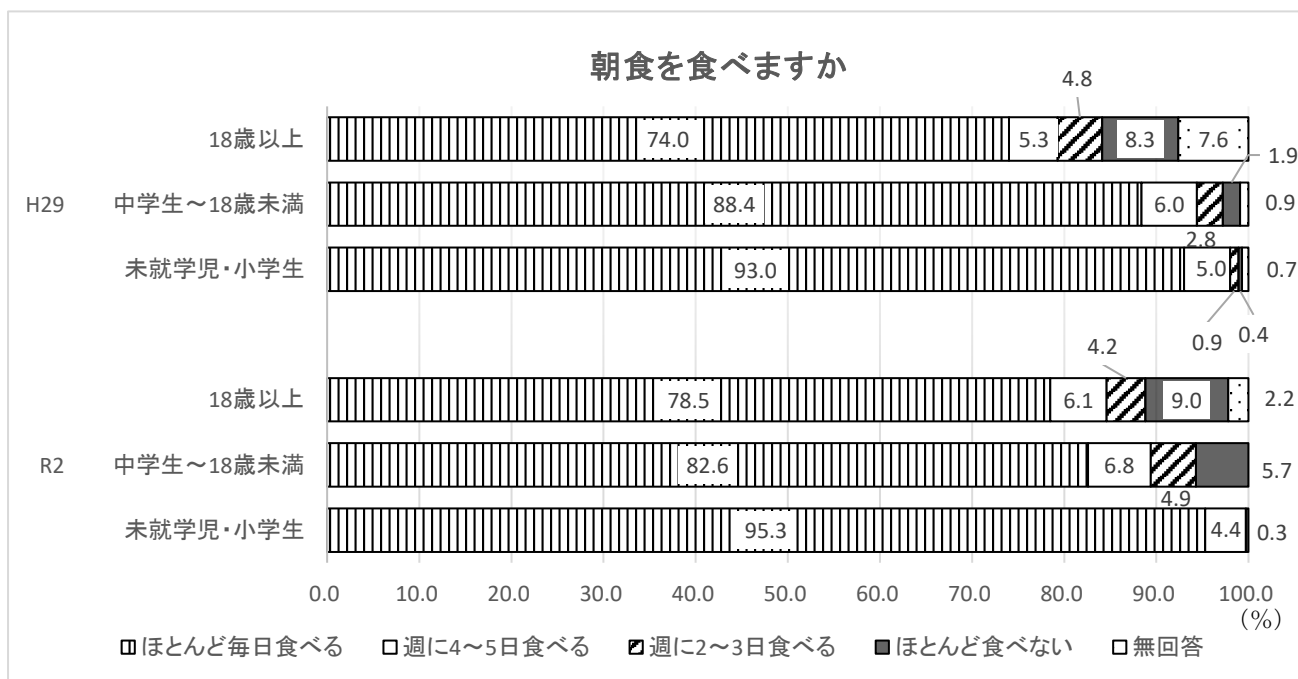
※④生活習慣病：食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣によって、引き起こされる病気の総称。主な生活習慣病にはがん、高血圧、糖尿病、メタボリックシンドロームなどがある。

生活、また、若い頃からの食生活が重要であるため、この世代への働きかけをしていく必要があります。

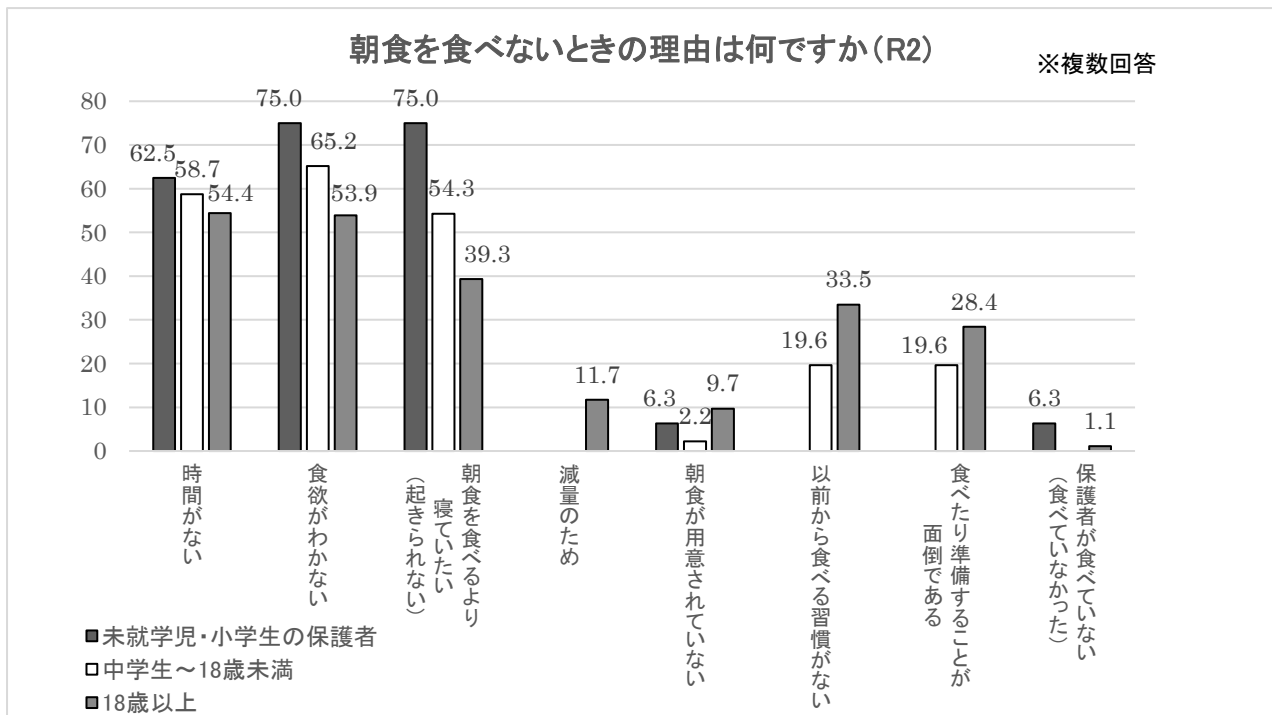


(8) 朝食の欠食について

前回調査と比較すると、「ほとんど食べない」と回答した割合は未就学児・小学生を除いて増加しており、世代別では年代が上がるにつれて増加傾向にあります。また、朝食を食べないときの理由は「時間がない」「食欲がわかない」「朝食を食べるより寝ていたい」と回答した人の割合が全世代で多くなっています。朝食欠食は生活リズムが乱れ、後の生活習慣病へもつながる可能性があります。学校では「早寝早起き朝ごはん」運動^{※⑤}を展開しており、引き続き実施するとともに10歳代後半から30歳代の若い世代への働きかけも行っていく必要があります。



※⑤「早寝早起き朝ごはん」運動：子どもの生活習慣づくりについて、社会全体の問題として子どもたちの生活リズムの向上を図っていくため、平成18年4月に「早寝早起き朝ごはん」全国協議会が発足したものを。

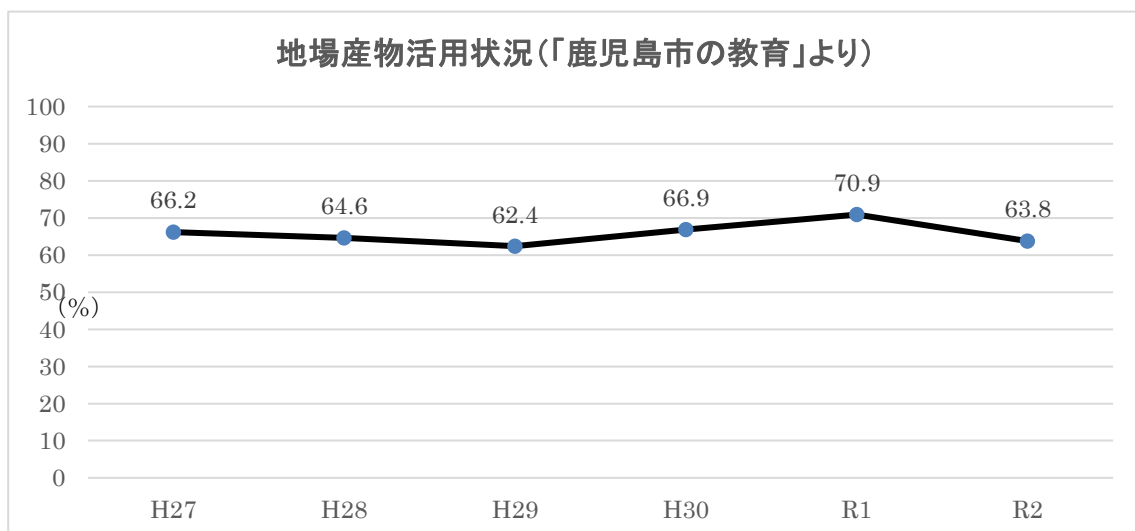


(9) 地場産物^{※⑥}について

① 学校給食の地場産物活用状況

地場産物の活用状況は、令和2年度は63.8%となっています。

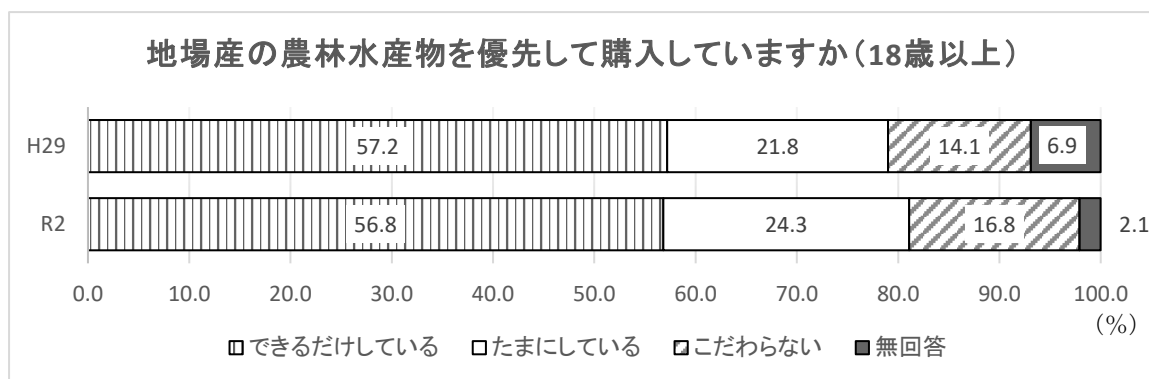
学校給食に地場産物を活用することは、地域の自然、文化や産業等に関する理解や食に関する感謝の念を育む上で重要であること等から、引き続き活用に努めます。



※⑥地場産物：鹿児島県で生産、収穫、水揚げされた食材。

②地場産の農林水産物の購入意欲

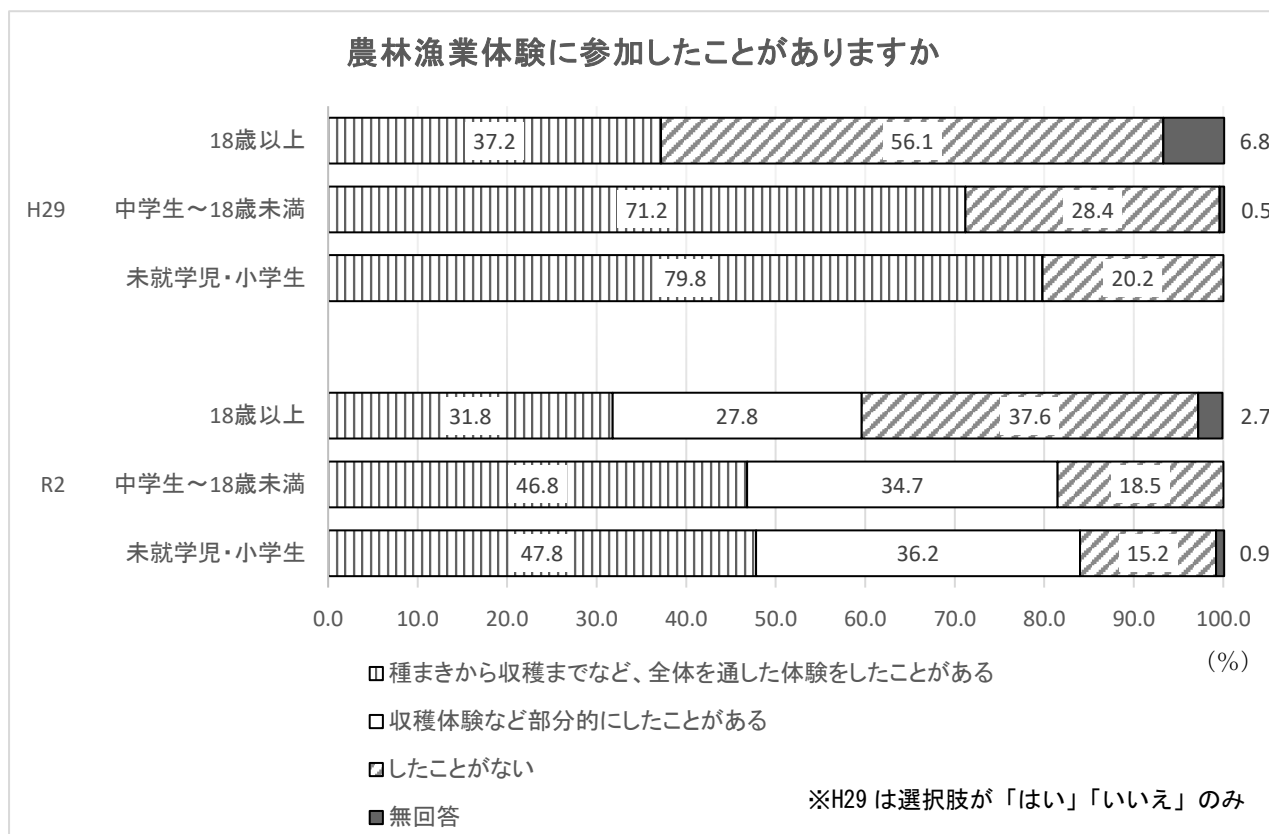
前回調査と比較すると、購入している割合（「できるだけしている」「たまにしている」）は、微増となっています。地産地消^{※⑦}に関するイベントの開催やちらし配布等を行い、生産者と消費者とをつなぐ働きかけを行っていることが一因と考えられます。流通や保存などの技術向上により、外国産が安価で品質も良くなっていることや県外産の流通も増えてきているため、さらなる取組を検討していく必要があります。



※⑦地産地消：その地域で取れた農林水産物をその地域で消費すること。

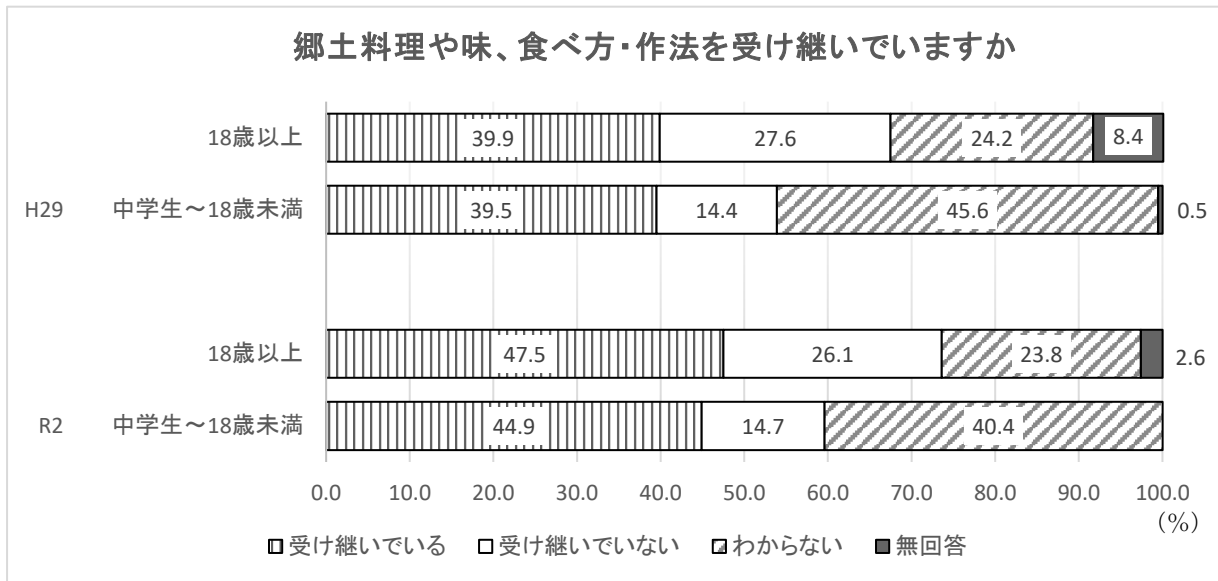
(10) 農林漁業体験について

前回調査と比較すると、参加したことがあると回答した割合（「種まきから収穫までなど、全体を通した体験をしたことがある」「収穫体験など部分的にしたことがある」）は、全世代で増加しています。ただし、世代別で見ると、「参加したことがある」と回答した人の割合は、世代が上がるにつれて減少する傾向があります。子どもだけでなく、大人へも農林漁業体験の意義や大切さを理解してもらえようような働きかけをしていく必要があります。



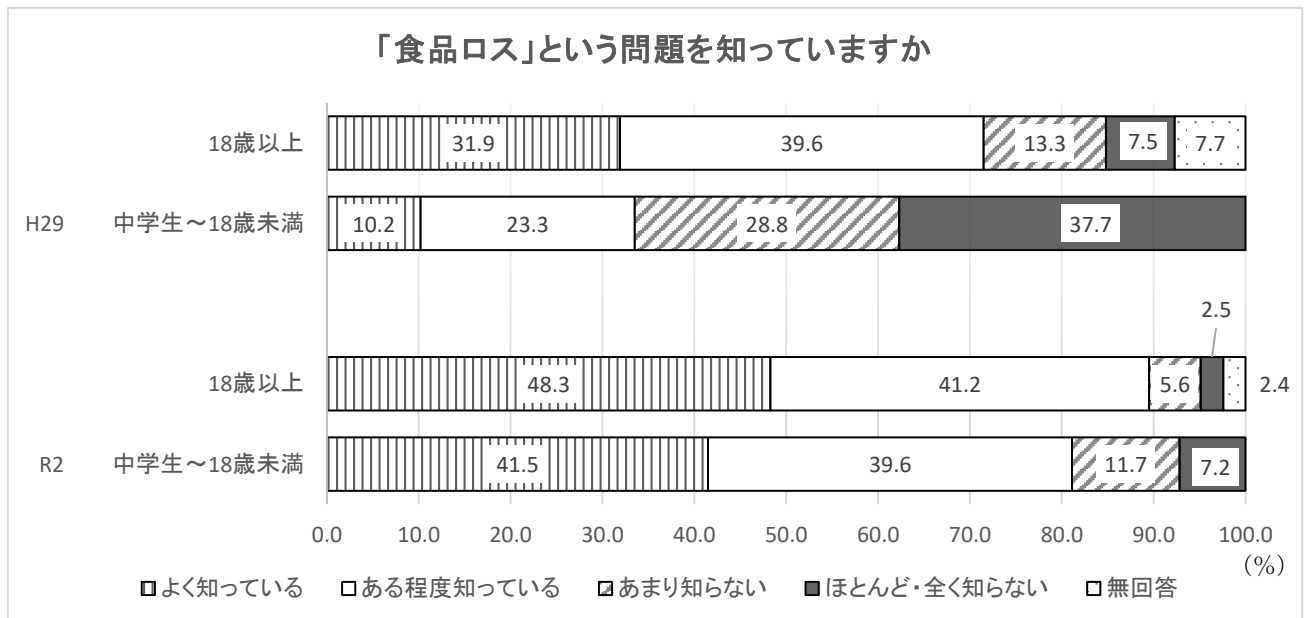
(11) 郷土料理・作法などについて

前回調査と比較すると、「受け継いでいる」と回答した割合は両世代で増加しています。給食での郷土料理提供や、各種施設等で郷土料理教室を開催していることから、郷土料理に親しむ機会が増えていることが一因と考えられます。引き続き郷土料理の認知度を上げる取組を行うとともに、作法についても情報発信していく必要があります。



(12) 食品ロス^{※⑧}について

前回調査と比較すると、知っている割合(「よく知っている」「ある程度知っている」)は、両世代で増加しており、特に、中学生～18歳未満では、47.6ポイントも増加しています。マスメディアなどで食品ロスの話題が取り上げられていることなどが一因と考えられます。また、食品ロスの問題は環境面だけでなく、食べものをつくる生産者・製造者への感謝の気持ちや食べものを無駄にしないという道德面にも関係しています。今後は、言葉の認知度を上げる取組を行うとともに、環境と道德の両方の立場から食品ロス削減への取組を広げていく必要があります。



※⑧食品ロス：食べられるのに捨てられてしまう食品のこと。

2. 第三次かごしま市食育推進計画目標値における最終評価

[評価の分類] ○:目標値に達した △:目標値に達していないが改善傾向にある ×:悪化している

目標項目		現状値 平成 29 年度	目標値 令和 3 年度	最終評価 令和 2 年度	達成度	
1	食育に関心を持って いる人の割合の増加	18 歳以上	69.5%	90%以上	72.2%	△
		中学生から 18 歳未満	49.8%	55%以上	60.4%	○
2	食に関するボランティア数の増加	2,805 人	10%以上 増加	4,564 人 (62.7%増)	○	
3	栄養バランス等を意識した食生活を送っている人の割合の増加	71.8%	80%以上	76.3%	△	
4	食事をよく噛んで味わって食べる人の割合の増加	41.4%	55%以上	45.9%	△	
5	食品の選択・調理方法について知識のある人の割合の増加	67.2%	90%以上	73.4%	△	
6	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加 (朝食+夕食の週平均)	週 9.6 回	週 10 回以上	週 10.1 回	○	
7	一人暮らしの人が共食する割合の増加	44.6%	50%以上	65.6%	○	
8	生活習慣病予防や改善のために、普段から食生活に気を付けている人の割合の増加	54.7%	75%以上	62.8%	△	
9	朝食を食べない人の割合の減少 ※2	20~30 歳代の男性	18.8%	15%以下	22.4%	×
		20~30 歳代の女性	10.1%	10%以下	15.2%	×
		40 歳代の男性	28.6%	25%以下	22.9%	○
10	地場産の農畜産物・水産物を意識して購入する人の割合の増加	79.0%	90%以上	81.1%	△	
11	農業体験を経験した人の割合の増加	18 歳以上	37.2%	85%以上	59.6%	△
		中学生から 18 歳未満	71.2%	95%以上	81.5%	△
		未就学児・小学生	79.8%	95%以上	84.0%	△
12	郷土料理や家庭料理、作法などを受け継いでいる人の割合の増加	39.9%	45%以上	47.5%	○	
13	食品ロスを知っている人の割合の増加	71.5%	80%以上	89.5%	○	

※1 「ほとんど毎日」を週7回、「週に4~5日」を4.5回、「週に2~3日」を2.5回、「週に1日程度」を1回として、朝食・夕食ごと(設問ごと)に、当該人数を掛け、合計したものを全体数で割り、朝食と夕食の回数を足して週当たりの回数を算出する。

※2 標準誤差(90%信頼区間):20歳代男性→8.1% 30歳代男性→11.5% 20歳代女性→4.7%
30歳代女性→5.7% 40歳代男性→7.1%

3. 食育に関する市民意識調査実施概要

(1) 調査目的

「第三次かごしま市食育推進計画」の目標値の達成状況や食育に関する現状、課題を把握し評価を行うとともに、次期食育推進計画の基礎資料として活用するために、市民意識調査を実施しました。

(2) 調査地域

鹿児島市全域

(3) 調査方法

郵送調査

(4) 調査期間

令和2年7月29日(水)～8月25日(火)

(5) 抽出方法

下記の区分ごとに無作為抽出

(6) 調査対象者及び回収結果等

対象者	対象者数	回収数	回収率	記入方法
18歳以上の市民	3,380	1,804	53.3%	自記入式
中学生から18歳未満の市民	560	265	47.3%	自記入式
未就学児・小学生	560	343	61.2%	保護者による回答
合計	4,500	2,412	53.6%	

※市民意識調査結果については、比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため、百分比の合計が100%にならないことがあります。また、複数回答の設問は、全ての合計が100%を超えることがあります。